

平成 19 年 12 月 6 日

宮城県北部地域でのアンケート調査結果の考察

宮城県重症心身障害児(者)を守る会 会長 秋元 俊 通
同 大崎分会長 大友 祥 子
同 栗原分会長 曾根 紀 元

今回 37 箇所の役所関係・病院・養護学校・福祉施設の皆様に該当者へアンケート用紙をご配布いただいて調査を行うことができました。ご協力を頂きました皆様に改めて感謝申し上げます。

配布総数 163 通の結果、42 通のご回答をいただきました。そのうちの有効回答 37 通で集計いたしました。有効回答 (37 件) の内訳は、在宅 28 名、入所 9 名でした。

詳細は、後添のアンケート結果と同別紙とをご覧ください。

在宅では、定期受診 (21 名)、訓練 (18 名)、歯科 (13 名) の多くの方が仙台に通っておられます。病院を利用して感じていること、また、ご意見の中では、「遠い」、「きつい」、「地域に専門病院が欲しい」、という声が多くありました。

宮城県北部地域の根幹病院でもある「大崎市民病院」の充実を切に望むものであります。

また、ショートステイについては、10 名の方が緊急時やあるいは定期的にお使いです。

「遠くて連れて行けない」と回答をいただいた方は 3 名でしたが、8 名の方は近くでショートステイの練習がしたいと回答されました。

近くに A・B 型の通所施設ができれば通所を望むとお答えの方は在学中の方 (卒業後) も含めて 24 名おられました。

医療ケアを必要としている在宅のお子さんが 13 名おられますから、ショートステイもできて医療が充実している通所施設が新たに設置されることを望む声が多いようです。

入所の方からは、「親が高齢のために外泊が難しい」、「外泊時のお風呂介助が大変」と回答をいただいております。しかし、地元にも今の施設と同じような入所施設ができればそちらに移りたい方は 3 名でした。

一方、現在は在宅でも、在宅での介護が難しくなったときに入所を望んでおられる方は、11 名いらっしゃいます。

合計 13 名の方がいつでも面会に行けるように地元に入所の重症心身障害児施設が欲しいとのお答えでした。しかし、回答の総数から言えば、当地域に重症心身障害児施設の新設は難しいといわざるを得ません。

災害時については、在宅のお子さんの避難先として、施設や病院または家族と一緒に自宅及び指定避難場所とお答えになっておりますが、避難手順として地域の方や役所の方からご理解をいただいております方は 2 名のみで、23 名の方はご理解をいただいていないとお答えでした。

守る会に関心を持っておられる方が 31 人おいでで、今後連絡をしてもよい方が 21 名でしたので、当会としてこれからもネットワークの拡大に頑張っていかなければならないと身の引き絞まる思いでおります。

以上